

# その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.157

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



たなかやすお ●56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。小説「33年後のなんとなく、クリスタル」を11月25日に河出書房新社から上梓。【公式ブログ】http://www.nippon-dream.com/



## 「羊頭狗肉」を糊塗する「朝三暮四」解散で、師走に“大政翼賛選挙”!?

### 今週の逸品



### ニンニク入り空心菜炒め 1280円

17日発表の7月～9月期GDP速報値も本文記載の数値と大差なき混乱ニッポン。増税で景気浮揚した国家は古今東西、何処にも存在せずと述べ続けてきた僕が増税先送り解散は片腹痛いと申し述べるのは、増税決

定&実行の責任者は出処進退を自ら決断してこそ。米中首脳が6時間以上も会談する一方、通訳を介し実質10分の挨拶を会談と見做す彼私の違いは大、と池袋で中国東北家郷料理の一夜。

【永利本店】東京都豊島区池袋1-2-6 ヘルメゾン池袋 ☎03-5951-0557 営11:00～24:00(LO23:30) 無休 http://eiri-honten.kg-consul.jp/

illustration by Hajime Anzai



「消費税増税を先送りし、アベノミクスの成果を問う」のが「争点」とは笑止千万。「羊頭狗肉」を糊塗する「朝三暮四」解散。この巻句に尽きます。にも拘らず、自由民主党と日本共産党が同一のスローガン「消費税は上げません」を掲げて、師走の「大政翼賛選挙」が展開される「奇怪ニッポン」。

4月～6月期の数値を簡単に復習すれば、経済成長率(実質国内総生産＝GDP)は前期比▲1・8%。年率換算▲7・1%。東日本大震災時を超える減少率です。

因みにアメリカは前期比+4・2%。驚く勿れ、家計最終消費比率に至っては年率換算で▲23・1%。内閣支持率、大統領支持率とは真逆な日米「実体経済」の現実です。実質賃金指数も、前回総選挙の2012年12月と、その1年半後の今年6月を比較すると▲2・4%。7月の給与所得者世帯の実収入も▲6・2%と10ヶ月連続減少。他方で同月の消費者物価指数は前年同月比+3・3%。賃金上昇率よりも物価上昇率が高い。歪んだデフレ脱却現象が顕著。昨年4

月導入の「異次元金融緩和」が失策だった粉れもなき証左です。然れど厚顔無恥にも黒田東彦総裁は「ハローウイン緩和」と銘打ち、マネタリーベースと資金供給量の年間増加ペースを80兆円に拡大。他方で年間80兆円もの国債を日銀が買い入れる「黒田バズーカ2」を発射。10月31日開催の日本銀行政策委員会に於ける政策委員の賛否が、今後の日本を暗喩しています。賛成したのは総裁、副総裁2名、大学教授2名の計5名。民間企業・金融機関出身の4名は

何れも反対を表明しました。新発国債の殆どを「お手盛り」購入。ETFなる上場投資信託の購入量を3倍に引き上げる「黒田イリュージョン」。それは、日銀のバランスシートの規模が1年後、GDPの70%を超える、世界の中央銀行でも類を見ない「異次元」へと国民を誘います。国債価格の暴落、日本の信用毀損、更にはハイパーインフレを齎す蓋然性が極めて高い「麻薬」です。政権交代時に1\$≒84円台だった円は今や115円台。僅か2年間で円の価値は対ドルで3割も下落。それは、世界に於ける日本の存在感の低下を意味します。国外から見れば、日本のGDPは3割も減少している訳なのです。消費増税のマイナス要因を上回る経済成長の果実を約束していたのがアベノミクスと黒田バズーカ。消費税率10%への引き上げを先送りとは取りも直さず、その「双子の経済政策」が成功とは呼び得なかったが故の「英断」。

他に方策など無かったのだ、と激昂する向きも居られましょう。呵々。必ず「勝てる」と豪語した戦争が敗戦で終わったなら、敗軍の将は兵を語らず、黙って退くもの。そこでこそ歴史に名を残すノーブレス・オブリージの「英断」なのにな。何れは増税する「羊頭狗肉」を糊塗する「朝三暮四」解散。冒頭で慨嘆した所以です。